

# キヌヒカリ熟期の高温登熟性品種の選定について

和歌山県農業試験場

## 背景・ねらい

- 近年、夏季の高温により、水稻栽培では玄米に白未熟粒(心白、乳白、基部未熟、背白、腹白)が多く発生し、玄米品質が低下している。2020年の本県一等米比率は25.9%と低く、特に‘キヌヒカリ’では5.9%と著しく低く、問題になっている。
- ‘キヌヒカリ’に替わる高温でも登熟の良い品種が現地から強く求められている。当試験場では有望な品種の選抜を行っているのでその内容を紹介する。

## 試験結果

- 予備試験の中で収量・品質の良かった‘あきさかり’、‘にじのきらめき’を有望品種として選抜し本検査、現地試験を実施。
- ‘あきさかり’は‘キヌヒカリ’より出穂期は2日遅く、成熟期は5日遅い。収量は多く、整粒率は69.0%と高く品質に優れる。食味はやや良い(表1、2)。
- ‘にじのきらめき’は‘キヌヒカリ’より出穂期は1日遅く、成熟期は5日遅い。収量はやや多く、整粒率は66.8%と高く品質に優れる。食味は良い(表1、2)。
- 出穂期がより高温になるように5月下旬に移植した場合も、整粒率は、あきさかり’: 66.1%、‘にじのきらめき’: 65.0%となり、キヌヒカリ’: 54.3%よりも高く品質が良かった(2019年結果より)。

## 今後の計画

今後も、上記2品種の現地試験や特性調査を続けながら、県外の育成地から新たに品種・系統を取り寄せ、成熟期が、‘キヌヒカリ’と同程度かより早い高温登熟性に優れた和歌山県に適した品種の選抜を行っていく。



写真:各品種の玄米

表1 キヌヒカリ熟期の高温登熟性品種の生育・収量について

品種・系統名	出穂期 月・日	成熟期 月・日	稈長 cm	精玄米重 kg/a	対照比 %	千粒重 g	整粒率 %
あきさかり	8.13	9.16	75.8	58.4	112	21.8	69.0
にじのきらめき	8.12	9.16	71.3	56.2	108	23.6	66.8
キヌヒカリ(標)	8.11	9.11	79.6	52.0	100	21.6	57.2

注) 移植日は2020年6月16日移植方法はペーパーポット手植え。植付け本数3本/株。栽植密度は16株/m<sup>2</sup>(25cm×25cm)。施肥量はエムコート489(早生品種用)(N-P205-K20:24-8-9)を窒素成分で8kg/10a施用。出穂期は全茎数の5割が出穂した日。成熟期は中庸な穂が9割黄化した日。精玄米重は1.8mmで篩い選した15%換算値。整粒率は穀粒判別器(静岡製機ES-1000)にて測定。

表2 食味官能結果

品種名	外観	香り	味	粘り	硬さ	総合
あきさかり	0.46	0.31 *	0.35	0.42	0.15	0.58 **
にじのきらめき	0.58 *	0.31	0.58 **	0.69 **	0.35	0.69 **
キヌヒカリ(標)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

注) 実施日: 2020年2月6日

パネラー: 農協職員、県振興局職員、  
県農業試験場職員等 計26名  
\* は5%、\*\* は1%水準で有意差あり。

← 0 → +  
弱い←粘り→強い  
柔らかい←硬さ→硬い  
不良←その他→良い